

GAP教育推進について（案）

徳島県農業教育学会から提案

――― 農業の担い手育成に向けてGAP教育推進組織の立ち上げについて―――
「農業の担い手育成のためのOSS版GAP導入・教育支援システム」を活用してGAP教育推進に取り組む。

補 足 説 明

- 1 農業生産工程管理（GAP：Good Agricultural Practice）とは
農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動。（農林水産省） ※農業生産工程管理を以下「GAP」という。
- 2 GAPのねらい
 - (1)消費者：農産物輸出には、世界的基準で農業生産物の安全を保証するGAP認定が不可欠となっている。（品質保証）
 - (2)生産者：農作業時の事故防止、安全で衛生的な労働環境など（労働条件保証）
 - (3)地球環境：環境に配慮した循環型の農業で国土と環境の保全
- 3 GAP教育の推進のメリット
 - (1)担い手育成：国際化に対応した強い日本農業の担い手を育てる。
 - (2)農業実習：安全で衛生的な農業実習の環境（GAPこそ安全の代名詞）
 - (3)栽培履歴：農業生産工程管理履歴の活用により伝統知識・技術の伝承
○例：各農業高校の統廃合や教職員の退職により消えていく栽培技術を継承する。
○例：各県1作目の取組が47の栽培履歴データベースとなる。
 - (4)栽培履歴研修と担い手育成のためのGAP教育で、教職員の指導力向上を図る。
- 4 全国農業高等学校協会がGAP教育を取り扱う必要性
 - (1)将来の担い手育成教育
平成21年告示の高等学校学習指導要領の教科「農業」、科目「作物」・「野菜」・「果樹」・「草花」の内容の取り扱いに位置づけと、第2次アクションプラン推進の観点から必要である。
 - (2)GAPは、世界的な潮流であり、「グローバル化」と「強い日本農業」の観点からGAPを理解した教職員の指導力向上を図る必要がある。
 - (3)全国の農業高校が蓄えてきた各作目の栽培履歴情報を集積し、データベースとして自由にその活用を図ることは教職員研修や農場経営改善に有意義である。
○高校の統廃合や退職により消えている栽培方法等を協会で蓄える必要がある。
- 5 徳島県では、GAP教育推進に向けて何をしているのか
 - (1)様々なGAPの内「とくしま安²GAP」を推進する。
 - (2)各学校は、1つ以上の作目でGAP認定を受ける。（H24年三好高校基本認定）
 - (3)教職員研修の徹底（H22年以降各学校・学会・県教委主催のGAP研修会開催）
 - (4)全国農業高等学校長協会へ全国的な推進組織を要望していく。